

JSPSボン研究連絡センター 2010 年度第3四半期活動報告 (2010 年 10 月～12 月)

< 目 次 >

1 2010 年 10～12 月の主な活動	…p 1
2 会議、イベントへの出席、当センターへの来訪者等一覧	…p 7
3 2011 年 1 月以降の予定	…p 8
4 センター長雑感	…p 8

1 2010 年 10～12 月の主な活動

①IRTGミニシンポジウムに出席

日時: 2010 年 10 月 29 日

場所: ミュンスター大学(ミュンスター市)

ミュンスター大学化学薬学部が開催した「IRTG ミニシンポジウム」に小平センター長と中川副センター長が出席した。「IRTG (International Research Training Groups)」とは、ドイツの大学と外国の大学との共同大学院プログラム(博士課程)を支援するための、ドイツ研究振興協会 (DFG) が実施しているプログラムであり、JSPS の「日独共同大学院プログラム」のマッチングファンドでもある。ミュンスター大学化学薬学部は名古屋大学大学院理学研究科と協力して、JSPS と DFG の支援の下に、日独共同大学院プログラムを実施している。

本シンポジウム開会に当たって、ミュンスター大学 Stephan Ludwig 副学長に続き、小平センター長が開会の挨拶をした。小平センター長は其中で、2010 年にノーベル化学賞を受賞した根岸英一氏、鈴木章氏の対談から、科学のブレイクスルーにとって何が大切かについて、「eternal optimist (永遠の楽観主義者)」と「serendipity (別のものを探しているときに、偶然に素晴らしい幸運に巡り合ったり、素晴らしいものを発見したりすることのできる、その人の持つ才能という意味に使われる言葉)」という 2 つのキーワードを使って紹介し、このシンポジウムが若い研究者に対してひらめきを与えるものとなるよう祈念した。

本シンポジウムは、講師の選定や講師への講演依頼、当日の司会を含め、ミュンスター大学の学生によって運営されていたとのことだが、運営は非常にスムーズに行われており、講演も参加者の関心を引き付けるもので、質疑応答も活発に行われていた。また、本シンポジウムには名古屋大学からミュンスター大学に留学している 2 名の日本人学生も参加していた。

< 関連 URL >

http://www.uni-muenster.de/Chemie.oc/en/IRTG_MS_NG/workshops.html

名古屋大学日独共同大学院プログラム HP <http://irtg.rcms.nagoya-u.ac.jp/index.html>

IRTG について (DFG HP)

http://www.dfg.de/en/research_funding/programmes/coordinated_programmes/research_training_groups/international_rtg/index.html



会場の様子



挨拶をする小平センター長

②日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント開催

日時: 11 月 5 日 13:30-17:00

場所: フライブルク大学 (フライブルク市)

当センターにおける秋の恒例行事となっている「日本の大学及び渡日プログラム紹介イベント」を開催した。これは JSPS が我が国の大学の国際化を支援する事業の一環として、欧州に拠点を置く大学等関係機関に参加を呼びかけて行っているものである。当日は、フライブルク大学の学生、教職員を中心に、50 名程度の来場があった。

今年度の参加機関は次のとおりである。

- ・JSPS ボン研究連絡センター (主催者)
- ・国際交流基金ケルン日本文化会館
- ・名古屋大学ヨーロッパセンター (フライブルク大学内)
- ・早稲田大学ヨーロッパセンター (ボン)
- ・筑波大学ヨーロッパ事務所 (ボン)
- ・大阪大学グローニンゲン教育研究センター (オランダ、グローニンゲン)
- ・横浜国立大学 (齋藤国際協力員所属元大学)
- ・東京工業大学 (佐々木国際協力員所属元大学)
- ・上智大学 (フライブルク大学協定校)
- ・明治大学 (JSPS ドイツ同窓会長 Heinrich Menkhaus 教授が勤務)
- ・JSPS ドイツ同窓会

・在ドイツ日本国大使館(資料参加のみ)

開会に当たっては、小平センター長の挨拶に続き、フライブルク大学 Jürgen Rühle 副学長から挨拶をいただいた。その後、JSPS の事業紹介、各機関のプレゼンテーション、JSPS 事業を通して日本での研究を経験した 3 名のドイツ人若手研究者による体験発表と続いた。

中川副センター長による JSPS 事業の紹介においては、来場者を考慮し、若手研究者や大学院生が応募できるプログラムに焦点を当てた説明を行った。

参加各機関は 10-20 分のプレゼンテーションを行い、機関の概要や渡日プログラム等を紹介した。JSPS ボンセンターの 2 名の国際協力員も業務研修の一環として、齋藤国際協力員は横浜国立大学、佐々木国際協力員は東京工業大学と、それぞれ所属元大学を紹介するプレゼンテーションを行った。齋藤国際協力員は、7%という高い留学生比率等の横浜国立大学の特徴を紹介し、協定校でないフライブルク大学からいかにして留学することができるかについて、経費的な側面も含めて様々な可能性を分かりやすく英語で紹介した。佐々木国際協力員は、英語で修了できる課程や留学生向けの住環境等の具体的な情報の紹介を中心としたプレゼンテーションをドイツ語で行った。

会場には別途資料コーナーを設け、来場した学生等はコーヒープレイクの時間に各機関の担当者から直接説明を受けていた。

来場者に対して行ったアンケートによると、フェローシップについてのみでなく、個々の大学についてより詳しい情報を求める意見も多かった。



開会の挨拶をする小平センター長



中川副センター長による JSPS 事業紹介



横浜国立大学の説明をする齋藤国際協力員



東京工業大学の説明をする佐々木国際協力員



JSPS 事業経験者による体験発表



会場の様子



③岡村陽介博士(JSPS 海外特別研究員。ボン大学所属)が来所

日時: 12 月 3 日

JSPS の海外特別研究員事業によりボン大学 Life and Medical Sciences Institute にて在外研究を行っている岡村陽介博士が当センターを訪問した。小平センター長、中川副センター長、齋藤国際協力員が、同氏が現在進めている研究についての説明を受け、海外特別研究員制度、ドイツでの滞在等についての意見交換を行った。なお、同氏は早稲田大学の客員教員も務めており、ボン大学と早稲田大学の研究交流にも尽力していることから、当センターも含めた今後の協力の可能性についても意見交換をした。

④ ベルリン日独センター等との共催シンポジウム「異文化交流の視点から見た人間とロボットのインターアクション」を開催

日時: 12 月 6 日～8 日

場所: ベルリン日独センター(ベルリン市)

ベルリン日独センター、国際交流基金ケルン日本文化会館、フランクフルト大学、名古屋大学との共催で、標記シンポジウムを開催した。本シンポジウムのテーマは、日独両国を代表するロボット工学研究者と人文科学諸分野の学者・専門家が、高齢化が急速に進行する日独両社会における技術工学的な支援手段の可能性につき、特に非技術工学的側面(法的、倫理的、社会的)に重点を置きつつ、検証することである。22 名の学者・専門家による講演が行われ、日本からは、大阪大学大学院工学研究科 石黒浩教授、筑波大学大学院人文社会科学研究科 仲田誠教授他、10 名が講演者として参加した。本シンポジウムは日独同時通訳付きで、100 名程度の来場があった。

以下は本シンポジウムに出席した小平センター長による報告である。

2 日間にわたる、8 セッション、目一杯の発表討論会で、日独の高齢化社会を背景に、産業支援ロボット、自動車を含む自動機械の延長としての人間の物理的機能の拡張のためのロボットから、人間の物的・精神的な補助・介助装置としてのロボットまで、技術開発の状況や社会の受容状況が紹介さ

れ、そのうえで、倫理・哲学・宗教的な側面の議論が行われた。すでに今までの日独シンポジウム、コロキウム等で指摘されているように、ドイツ社会は総じて人間とロボットの共生には否定的であるが、今回はドイツ人宗教学者から「神の創りたもうたもの」と「人間が造ったもの」は基本的に異なる、との解説があった。しかし、ドイツ人が好む原則論を徹底してするとその通りだが、実生活ではもう少し実用的に利用するのではないか、との意見もあった。実際、会場で実演展示されていたペット・アザラシの Paro をヨーロッパの一部老人介護施設で実験利用に供したところ、老人たちがさしての違和感なしにペット人形として対したとの報告もあった。石黒教授のアンドロイド製作が、「人間とは何か」を研究する装置として様々な知見を生んでいるという報告には、大学の研究室だからこそ出来る研究だとの感を深くした。一般の生活ロボット開発の場合には、最終的には市場需要がどれほど有るかが決定的で、違和感があれば市場は広がらない。ロボットへの親和感醸成が重要であることを再認識させる会議でもあった。

なお、大雪のため航空便が乱れ、一部参加者は旅程変更等を強いられた。

< 関連 URL >

http://www.jdzb.de/index.php?option=com_events&task=eventDetails&cat_id=1&Itemid=3&cid=169



ペット・アザラシロボット“Paro”



大阪大学石黒浩教授による講演

⑤“Messe Grenzenlos 外国への留学と就職フェア”に参加

日時: 12 月 9 日 9:30-15:30

場所: ボーフム大学 (Ruhr-Universität Bochum、ボーフム市)

本イベントは、ボーフム大学のインターナショナルオフィスがキャリアサービス部門と協力し、学生向けに外国への留学や就職について紹介するもので、ボーフム大学の協定校等ドイツ国外の大学、留学や外国での職業訓練斡旋機関等がブースを出展し、学生がブースを自由に見て回り、各機関の担当者から直接情報を収集するものである。2年に1回開催されており、今回は5回目である。主催者側によると、例年同大の学生を中心に 2,000 人程度が来場するとのことで、今回は 45 の機関がブースを出展し、来場者数は 2,300 人程度だったとのことである。タイトルの“Grenzenlos”(グレンツェンロ

ス)とは「ボーダレス」を意味する。JSPS ボンセンターは、前回の 2008 年に続き 2 度目の出展を行い、中川副センター長、齋藤国際協力員、Albers 職員が参加した。(前回の様子についてはこちら:

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei22.pdf)

ボーフム大学には東アジア研究学部の中に日本史専攻課程、日本語・日本文学専攻課程があるが、JSPS のブースにはそれらの課程に所属する学生だけでなく、社会科学や自然科学を含む幅広い分野を学ぶ学生や研究者の訪問を受け、50 人程度の方に対して直接事業紹介をすることができた。現時点では JSPS 事業の支援対象とならない学部学生に対しては、JSPS 事業を紹介するだけでなく、外国人留学生向けの各種奨学金を紹介する(独)日本学生支援機構のホームページ等について説明したが、多くの学生は熱心にメモを取っていた。

また、JSPS のブースの向かいには、早稲田大学、名古屋大学の在独事務所が「グローバル 30」のブースを設け、グローバル 30 事業採択校を中心とした日本の大学への留学等の説明を行っていた。JSPS とグローバル 30 のブースとで、ブース訪問者に対してお互いのブースを紹介することができ、効果的な紹介ができたと考えられる。

< 関連 URL >

<http://www.ruhr-uni-bochum.de/grenzenlos/>



JSPS のブース(左より中川副センター長、齋藤国際協力員、Albers 職員)



会場の様子

2 会議、イベントへの出席、当センターへの来訪者等一覧

(ゴシック体は「1 2010 年 10～12 月主な活動」に記載したもの)

【10 月】

- 10 月 05 日(火) 小平センター長がアレキサンダー・フォン・フンボルト財団フェローシップ審査会
に出席(於ボン)
- 10 月 07 日(木) 小平センター長と中川副センター長がハイデルベルク大学等を訪問、2011 年
度コロキウムについて打ち合わせ(於ハイデルベルク、～10 月 8 日)
- 10 月 18 日(月) 小平センター長と中川副センター長が在独公館長会議出席(於ベルリン)
- 10 月 29 日(金) 小平センター長と中川副センター長がミュンスター大学を訪問、IRTG ミニシン
ポジウムに出席、2010 年度コロキウムについて打ち合わせ(於ミュンスター)
…1-①

【11 月】

- 11 月 05 日(金) フライブルク大学にて日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント開催(於フ
ライブルク)…1-②
- 11 月 10 日(水) 中川副センター長、Schulze 職員、佐々木国際協力員がノルトライン・ヴェストファ
ーレン州日独 150 周年記念行事についての会議に出席(於デュッセルドルフ)
- 11 月 11 日(木) 小平センター長、中川副センター長が日独先端科学シンポジウム(JGFoS)に出
席(於ポツダム、～11 月 14 日)

【12 月】

- 12 月 01 日(水) 小平センター長、中川副センター長、Albers 職員が DFG(ドイツ研究振興協会)
を訪問、Schneider 国際部長と 2011 年 5 月開催予定の日独交流 150 周年記念
独シンポジウムについて打ち合わせ(於ボン)
- 12 月 02 日(木) 小平センター長と中川副センター長が在デュッセルドルフ日本国総領事館主催
天皇誕生日祝賀レセプション出席(於デュッセルドルフ)
- 12 月 03 日(金) 岡村陽介博士(JSPS 海外特別研究員。ボン大学所属)が来所…1-③
- 12 月 06 日(月) ベルリン日独センター等との共催シンポジウム「異文化交流の視点から見た人
間とロボットのインターアクション」を開催(於ベルリン、～12 月 8 日)…1-④
- 12 月 08 日(水) 佐々木国際協力員、Schulze 職員が DAAD を訪問(於ボン)
- 12 月 09 日(木) 中川副センター長、齋藤国際協力員、Albers 職員がボーフム大学での“Messe
Grenzenlos 外国への留学と就職フェア”に参加(於ボーフム)…1-⑤
- 12 月 10 日(金) 小平センター長、佐々木国際協力員が筑波大学主催シンポジウム“The Work
-shop on Nursing Care and the Aging Society: Applying the Current Knowledge
and Technology to a Better Future”に出席(於ボン)
- 12 月 13 日(月) 佐々木国際協力員、Schulze 職員がボーフム大学を訪問(於ボーフム)
- 12 月 16 日(木) 齋藤国際協力員がケルン大学を訪問(於ケルン)

○その他来訪者数：11 件(26 名)

3 2011 年 1 月以降の予定

02 月 16 日 (水)	第 7 回日独コロキウム開催(於ミュンスター、～19 日)
03 月下旬	JSPS ブリッジフェローシップ審査会(於ボン)
05 月 06 日 (金)	JSPS サマープログラムプレオリテーション開催(於ボン)
05 月 20 日 (金)	日独交流 150 周年記念 日独シンポジウム 2011 開催(於ベルリン、～21 日)
09 月中旬	JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会「JSPS Abend」開催
10 月 21 日 (金)	日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント開催(於フランクフルト)
12 月 01 日 (木)	第 8 回日独コロキウム開催(於ハイデルベルク、～3 日)

4 センター長雑感

いろいろな行事で忙しく短かった黄葉の秋があっという間に過ぎたと思うと、11 月の終わりには寒波が襲来して雪が降り積もり、年末まで寒い日が続いた。お陰で北ヨーロッパの航空便がしばしば大きく乱されてキャンセルが続出、おまけに、当センターの電話回線が不調をきたして電話もインターネットも不通の日が何日も続くことがあった。知らず知らずに慣れてしまっている高度技術依存の日常生活が、意外に脆いことを改めて思い知らされた。11 月には田中靖郎先生が文化功労者に選ばれた。先生の宇宙空間物理学分野での大きなご功績は言うまでもないが、日独の学術交流についてのご功績にも計り知れないものがある。日本人のノーベル化学賞受賞も明るいニュースだったが、根岸氏はアメリカでの、鈴木氏も若い頃の研究成果が認められたもので、自由な研究環境の大切さを再確認させられた。世代を継いで優れた若い人たちが育ち、激動する世界の中で、2011 年が日本にとって希望の光に満ちた年となるように願って止まない。

(2011 年正月)

ぼんぼん時計第 30 号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www. jsps-bonn. de